

12 / 15 (金) の発表

報道発表資料の配付日時 12月15日(金) 17時00分

発表項目 (行事名)	中標津町文化財保存活用地域計画の認定について		
記者レクのお知らせ	(実施日時) 月 日 () 時～	発表者	
		発表場所	
	<p>12月15日(金)に開催された国の文化審議会(会長 佐藤 信)において、中標津町の文化財保存活用地域計画が認定されましたので、お知らせします。</p> <p>○配付資料 文化庁の報道発表(中標津町に関する部分を抜粋)</p> <p>※「文化財保存活用地域計画」とは</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>市町村における文化財の保存と活用に関する総合的な法定計画で市町村の総合計画の下に体系付けられるものとして、平成30年の文化財保護法の改正により制度化されたもの。 計画を作成・実施することにより、文化財を総合的・一体的に保存・活用し、地域の特徴を活かした地域振興に資するとともに、確実な文化財の継承へとつなげる。</p> </div>		
参 考	<p>道内で他に認定されている自治体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・札幌市(令和2年2月14日認定) ・今金町(令和4年7月22日認定) 		
報道(取材)のお願い			
担 当 (連絡先)	<p>教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課文化財保護係 主査 菊地 梢 TEL:ダイヤルイン 011-204-5749 : 公用スマホ 011-585-6104 内線 44293</p>		

【計画期間】令和6～15年度（10年間）

【面積】684.87km²

【人口】約2.2万人

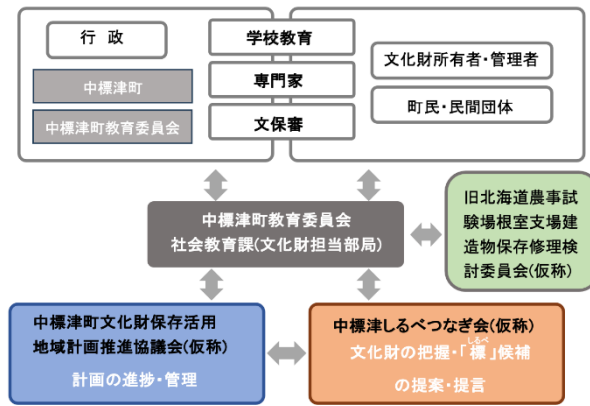


中標津町全域に広がる緑と水のネットワークの様相
「中標津の格子状防風林」保存・活用事業報告書より

推進体制

本計画の推進においては、文化財保護行政のみならず、町民・民間団体をはじめ、庁舎内内部局、関係機関との連携により進める。

また、本計画の進行・進捗状況を管理するため学識経験者、文化財所有者・管理者、関係機関、団体で構成される以下の推進協議会を設置する。



指定等文化財件数一覧（令和5年3月現在）

類型		選国指定	道指定	町指定	国登録	未指定等	合計	
有形文化財	建築物	建築物	0	0	0	5	102	107
		工作物	0	0	0	0	50	50
	美術工芸品	絵画	0	0	0	0	11	11
		彫刻	0	0	0	0	19	19
		工芸品	0	0	0	0	0	0
		考古資料	0	0	1	0	8	9
歴史資料 ²³	0	0	0	0	67	67		
無形文化財		0	0	0	0	0	0	
民俗文化財	有形の民俗文化財	0	0	0	0	135	135	
	無形の民俗文化財	0	0	0	0	100	100	
記念物	遺跡	0	0	0	0	6	6	
	名勝地	0	0	0	0	17	17	
	動物・植物・地質鉱物	0	0	0	0	19	19	
文化的景観		0	—	—	—	1	1	
伝統的建造物群		0	—	—	—	0	0	
埋蔵文化財		0	0	0	0	72	72	
その他	戦跡	戦跡	0	0	0	0	13	13
		伝承	0	0	0	0	3	3
	地名	0	0	0	0	3	3	
	ゆかりの地	0	0	0	0	182	182	
合計		0	0	1	5	808	814	

【凡例】 0:件数がゼロ件 —:該当なし

(2023(令和5)年3月現在)

指定等文化財は、6件
未指定文化財は、808件把握

歴史文化の特性

1. 標津川とその支流が支えてきた奥根室の人々の暮らしと産業

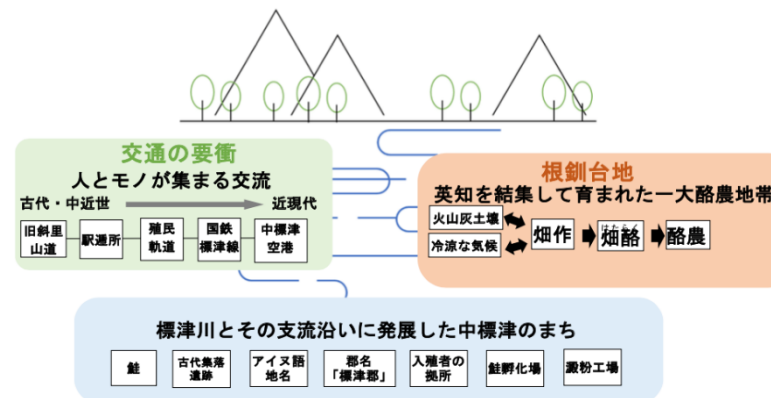
母なる川「標津川」とその支流をよりどころに育まれた奥根室の人々の暮らしや産業が、中標津町の歴史文化の特性を形成してきた。

2. 人とモノが集まる「交通」を通じて育まれた、時代を象徴する歴史文化

古代から連綿と使用されてきた踏み分け道にはじまり、空の玄関口の空港まで、人とモノが集まる根室地方の交通の要衝として、時代時代を象徴する文化財が生まれてきたことは、中標津町の歴史文化の特性の一つである。

3. 先人の幾多の苦勞と成功を礎に形成された一大酪農地帯が生み出す根釧台地の風景と歴史文化

畑作が中心であった生業が、繰り返す冷害凶作により酪農への転換が進み、先人の幾多の苦勞と成功を礎に一大酪農地帯が形成され、独特の風景や暮らしの潤いが生み出されたことは、中標津町の歴史文化の重要な特性と言える。



中標津町の歴史文化の特性イメージ図

【将来像】 酪農文化を代表とする先人の苦勞と成功により築きあげてきた多様な歴史文化の価値を共有し、人と人がつながることで、文化財を町全体で守り・活かし・次世代へ引き継いでいく、誇りと愛着を持って住み続けたいまち


文化財の保存・活用に関する課題・方針・取組み

基本方針1
文化財を掘り起こし、価値を広める

【課題】
①文化財調査が不足している
②文化財の価値の共有が不十分

【方針】
①文化財調査の推進
②文化財の価値を広める

【取組み例】
1 文化財総合的把握調査
町域に所在する美術工芸品や民俗文化財等について、類型ごとに網羅的に把握するための調査を実施する。
■中標津しるべつなぎ会
=町民が主体的に文化財を提案したり、取り組みについて提言するための会議であり、本計画作成後に設置する。
■R6~15



文化財総合的把握調査


基本方針2 文化財を守り、地域に活かす

文化財を守り、次世代へつなぐ

【課題】
①文化財の価値を適切に評価していく必要がある
②少子高齢化による「担い手」、「伝承者」の不足
③資料の保存管理施設の確保が不可欠
④文化財のデジタル・アーカイブ化が必要

【方針】
①文化財について、適切に価値評価を位置付ける
②文化財を守り、地域の「担い手」をつくる
③郷土館機能の維持及び施設整備の検討
④文化財のデジタル・アーカイブ化の推進

【取組み例】
19 郷土資料収蔵庫の整備の検討
適切に文化財を保存管理するための施設整備に向けた財源、立地についての検討を進める。
■行政
■R6~15




郷土資料移転作業

郷土への愛着や誇りを育み、地域に活かす

【課題】
①文化財の公開活用に向けた整備が必要
②文化財の観光活用に向けた取り組みが必要
③学校教育・生涯学習における文化財の活用の充実化が求められる

【方針】
①博物館機能の充実化・再構築を図る
②文化財を磨き上げ、地域社会に活かす
③先人たちの記憶をひろめ、郷土への愛着や誇りを育む

【取組み例】
27・29 歴史文化を活かした観光プログラム事業の推進
滞在コンテンツ(体験観光プラン、まち歩きルート)の企画立案・プレツアー・イベント等の実施。先端技術(VR・AR)によるコンテンツ開発(例:斜里山道や昭和の街並みを再現する)。
■行政、専門家、町民・民間団体
■R13~15




モニタツアーの実施

基本方針3
歴史文化の継承に向けた仕組みをつくる

【課題】
①歴史文化の継承に向けた仕組みづくりが必要

【方針】
歴史文化の継承に向けた仕組みづくりの促進

【取組み例】
41 (仮称)中標津町文化財保存活用地域計画推進協議会の設置・運営
文化財保存活用地域計画の進捗状況の確認及び見直し、事業推進のための協議会を設置し、開催する。
■行政、専門家、文化財所有者・管理者、町民・民間団体
■R6~15



中標津町文化財保存活用地域計画協議会

重点施策 中標津しるべつなぎ構想

『なかしべつ遺産「標(しるべ)」のストーリーとそれらを構成する文化財を町民が身近に感じて学び、訪問者と分ち合うことのできる仕組みをつくる
【コア博物館 / サテライト博物館 / サテライト / トレイル 等】

▲ 中標津しるべつなぎ構想

本構想は、**町全域を一つの博物館と見なし**、旧北海道農事試験場根室支場庁舎を**コア(中核)**に、複数の『なかしべつ遺産「標」』の**ストーリー**と現地で保存されている文化財、自然などの**サテライト**や、展示機能をもつ工場見学、公共施設などの**サテライト博物館**をめぐり、町民が文化財を身近に感じ、訪問者と分ち合うことのできる仕組み。

▲ なかしべつ遺産「標」(関連文化財群)の設定

町の文化財の背景にある**先人たちの苦勞と成功体験の物語を6つ設定した**。これらは、後世に伝える**標**となることから、町の地理的・歴史的ゆかりの深い字を用いて、『なかしべつ遺産「標」』と名付けた。



【なかしべつ遺産「標」をめぐるトレイル】

(徒歩・自転車・車で移動)の例

- 酪農景観と格子状防風林を体験するトレイル
- 近代化産業遺産を巡るトレイル
- 古代から現代までの道と駅を発見するトレイル

中標津町の歴史文化の特性	『なかしべつ遺産「標」』
I 標津川とその支流が支えてきた奥根室の人々の暮らしと産業	① 標津川とその支流に残る古代から近世の暮らしを伝える遺跡群 ② 標津川とその支流に発展した産業遺産
II 人とモノが集まる「交通」を通じて育まれた、時代を象徴する歴史文化	③ 400年以上も前から続く人々の憩いと集いの場・養老牛温泉 ④ 道東における古代から近現代に続く交通の要衝中標津の道と駅
III 先人の幾多の苦勞と成功を礎に形成された一大酪農地帯が生み出す根拠台地の風景と歴史文化	⑤ 旧北海道農事試験場根室支場を拠点として発展した中標津の酪農と宇宙からも見える格子状防風林がつくる酪農景観 ⑥ 酪農の発展とともに培われた生き生きとした生活文化

【構想の構成要素】

コア博物館 = 「文化財保存活用区域」エリア

旧北海道農事試験場根室支場を「文化財保存活用区域」の対象とし、構想のコア(中核)エリアとして保存・活用の方針を立てる。

サテライト博物館

展示機能を持つ既存施設。例：空港、工場、温泉施設等

サテライト

現地で保存されている文化財や自然など中標津の歴史を物語る遺産。

トレイル

コア博物館、サテライト博物館、サテライトを『なかしべつ遺産「標」』のストーリーで結ぶ回遊路として案内地図、誘導サイン等を整備する。

【文化財保存活用区域】旧北海道農事試験場根室支場

概要

『中標津しるべつなぎ構想』では、原野開拓民のシンボルと称された“旧農試庁舎”を「コア」として位置付け、その他、町の代表的な景観「根釧台地の格子状防風林」や、現在の町割りのベースとなる殖民区画の基準となる号線、零号が通るエリアを「コアエリア（文化庁指針で言う「文化財保存活用区域」）」として位置付ける。

構成文化財



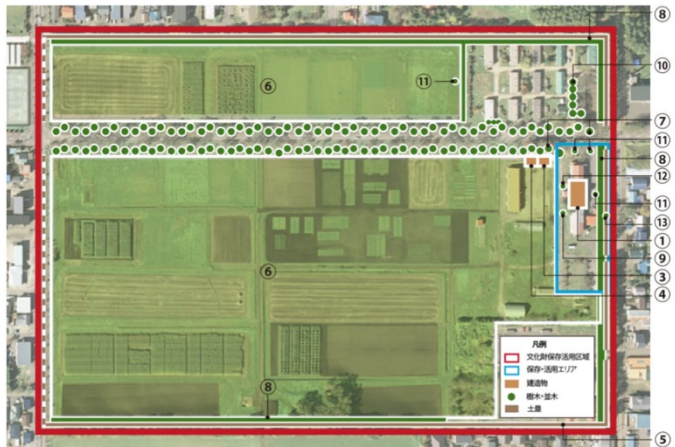
白樺並木



土塁



(左)開場当初 (右)現在



国登録有形文化財



旧庁舎



旧陳列館



農具庫



種苗倉庫

番号	名称	種別
1	旧北海道農事試験場根室支場庁舎	建造物(国登録有形文化財)
2	同 陳列館	建造物(国登録有形文化財)
3	同 種苗倉庫	建造物(国登録有形文化財)
4	同 農具庫	建造物(国登録有形文化財)
5	同 土塁	土地の形質
6	同 圃場	樹木
7	同 白樺並木	樹木
8	同 防風林	樹木
9	同 クリの木	樹木
10	同 桜並木	樹木
11	同 イチイの木	樹木
12	同 ミズナラの木	樹木
13	同 オオモジの木	樹木

※1未登録含む。 ※No. 2陳列館は場内より森林公園へ移築復元されている。

「区域」に関する現状・課題

- ①区域内の文化財の一体的な保存・活用の在り方
- ②価値を共有する上で拠点施設整備が求められる
- ③イベント及び各種講座などソフト事業の展開が求められる
- ④担い手の育成、町民活動団体との連携強化、財源の確保が必要

「区域」に関する方針

- ①開場以来の遺構を一体的に保全する
- ②ふるさと愛を育む - コア博物館機能の充実化
- ③歴史文化を活かした地域づくり - 観光・商業・産業振興
- ④人づくりまちづくりの拠点 - コミュニティの場

「区域」に関する主な措置

46 個別の「文化財保存活用計画」作成事業

文化財の所有者・管理者および専門家等による検討委員会を設置し、個別の文化財に対する保存・活用を図るための事業計画を立てる。

■行政、専門家、文化財所有者・管理者 ■R9~12

55 博物館施設(増築棟)の整備の検討

歴史文化を踏まえたストーリーに基づく郷土資料の展示公開、資料の保存管理、教育普及事業等の博物館機能の充実化を図るため旧庁舎に隣接して博物館施設(増築棟)を設置することを検討する。

■旧農試建造物保存修理検討委員会(仮) ■R13~15

60 観光案内ガイダンス機能の検討

文化財の周遊ルート拠点である旧庁舎にて観光案内を行えるよう観光案内ガイダンス機能についても検討していく。

■行政、町民・民間団体 ■R13~15

65 町民・町民団体の活動拠点

旧庁舎に、町民や町民団体、企業が、会議やイベントを開催できるよう多目的室を設ける。

■町民・民間団体 ■R13~15